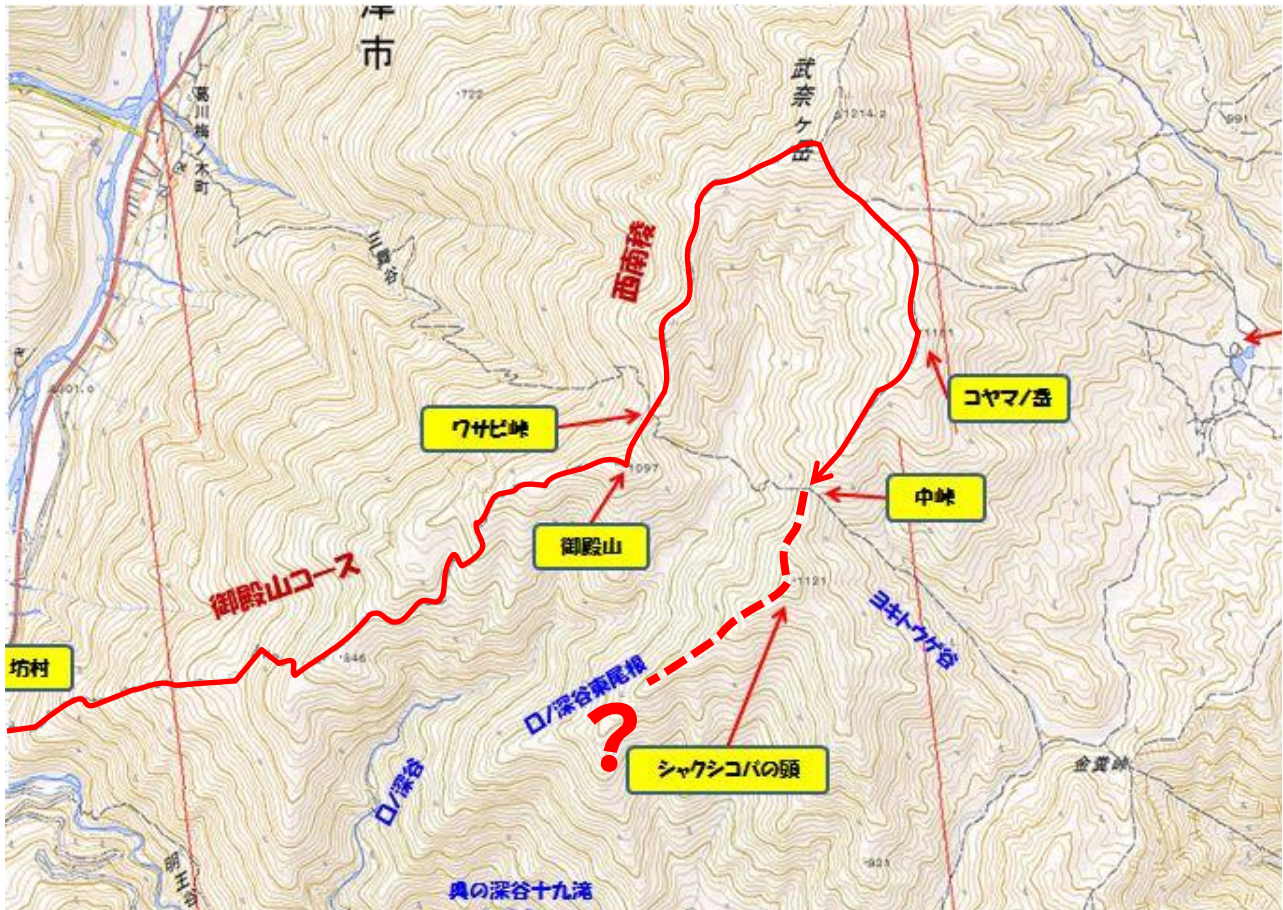


武奈ヶ岳遭難(2015年2月)

冬期単独行の遭難。妻に「日帰りで武奈ヶ岳に登る。」と告げたが帰宅しなかった。翌日、朝9時に妻へ「今どこにいるのかわからない。」と連絡が入った。計画書の提出がないため、どのルートで登山をしたのか分からず、また、悪天のため救助の出動は、その日は出来なかった。約1か月後に遭難者の携帯電話が偶然発見つかり、その付近を探索したところ遺体が発見された。



解説

1月31日、日帰りで武奈ヶ岳に登山。年齢は63歳。2月1日朝7時妻に「ひとりで下山できる」と電話があったが、その約2時間後に再び「今どこにいるのかわからない」と連絡があった。装備については不明だが、日帰りの予定が1日ビバークし、1夜なんとか過ごしている。朝になり、行動を開始するが、天候が悪く道に迷った可能性が高い。テントがあれば、見動きはしなかっただろうが、悪天候の中を行動することになった。「口ノ深谷東尾根」を下降し、途中で残念な結果となった。

冬期、比良山域は深い雪になる。この地域はそれだけではなく、過去にも道に迷いやすい場所として有名で、慎重な計画が必要になる。また、一度吹雪いたら方向が分らなくなるので、地図とコンパスの技術も必要だ。

さて、今回の遭難については、遭難者が亡くなられており不明な点が多いので、技術的な解説ではなく、心構えの話をしたい。

計画書の作成は、遭難の確立を低くする。計画書の作成の段階で装備の準備や行動計画を念入りに立てるからだ。それに比べ、思いつきでの山行は、計画そのものにも疑問が残るし、装備の不備が目立つことが多い。①冬期、②日帰り、③単独といった条件に、アクシデントが加わった場合を想定し、常に慎重に行動をしてほしい。